
世界って広いんだね

椰代

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界って広いんだね

【Nコード】

N0686Z

【作者名】

椰代

【あらすじ】

女子高校生なうゝなあたしは模試の当日に寝坊。前日の夜中に「寝坊したら奢ってね」と弟に言われていたのに（略）。気持ちを切り替えて車内勉強するあたしに襲いかかってきたのは睡魔、という名のプロローグでした。

あたしの560円(前書き)

この小説に興味を持っていただけてありがとうございます。
嬉しいです。異世界トリップって魅力的ですよね！
よろしくお願いします

あたしの560円

「蒼^{あお}っ！！起きなさい！！遅刻するわよ！！」

ある秋晴れの朝。

あたしはいつもどおり母に布団をはぐられ、自分の温もりから引き離された。

「いつまで寝てるの！！早く立つ！！起きるっ！顔洗う！！」

ああ・・・うるさい。低血圧のあたしの頭には母さんの甲高い声に顔を思いつきりしかめた。

言い返そうとしてふとデジタル時計を見、次の瞬間母さんが顔をしかめた。

「は、8時?!」

「だからさつきから言ってるじゃない！遅刻するのよ貴方！急ぎなさいね」

と言って、ぱたぱたと部屋を出て行った。

・・・やばい。今日は朝から模試なのに。あたしは頭をフル回転させた。

テストは9時から。学校まで30分。テスト15分前に着席完了。だから準備時間、10分以内。

考えながら制服に腕を通しスカートのホックを留めてかばんを抱えて家を飛び出した。

駅のホームまで猛ダッシュしたが、行ってしまったばかりなのか。

エントランスの最前列に並べた。ケータイで時間を確認すると、予想より一本早い電車に乗ることができようだ。

よかった、遅刻はなんとか免れそう。まだ寝癖が収まりきっていない髪の毛をしばらく撫で付けながら思っていると、電車の到着するときのメロディーが流れた。

扉が開いて、乗客が雪崩のように降車する。あたしが乗車する頃には、珍しく乗車シートに座れた。

ああ、間に合ってよかった。今日は（寝坊して）ついてないけど、（遅刻免れるから）ついてる。

何気なくケータイを開くと新着メールがあった。弟から。

『寝坊 乙。そうそう俺、購買のパンセット（560円）ね？』

「・・・」

そう言えば昨日、というか今日の夜中に「蒼いつまで起きてんの？また明日たたき起こされんぞ」と寝坊ゼロの弟にニヤ顔で言われたので「そんなことする訳ないじゃん」と反論して、「じゃあ賭けようか。蒼寝坊したら奢れよ」と言われ「あたしパンセット（560円）ね」と乗ってしまったんだ。・・・なんてこった。あたしの買い食い費が弟に・・・勉強って延長するもんじゃないわ。

とりあえず電車独特の走行音を聞きながら学校最寄駅に着くまでの間、かばんから英単語帳を出して、テスト対策に集中することにした。だがしかし。

ね、眠気到来・・・！！

数十分前まで寝ていたにも関わらず眠い。何故かとにかく眠い。

頭を軽く振りなんとか紛らわそうと瞬きもする。でも眠い。

馴れないことするもんじゃないか。どうせ終点だし、寝てしまおう。

潔く折れたあたしは、単語帳を閉まっつかばんに顔を埋めた。

あたしを呼ぶ声（前書き）

あたしを呼ぶ声

心地よい風があたしの体を撫ぜる。自分の体が湿った土の上に横たわっている感覚。

あれ・・・？あたしは電車のシートで寝てるんだよね。何故に土・・・？

くわつと目を開けば。

「……………どこじゃらほい」

あたしの知らない森。そしてあたしは土の上。

自分、こんな場所で何してるんでしよう。何で森！電車どこだ！模試はどうする！パンセット売り切れる！！てかどこだここ、もうやだ現実逃避したい。

「……………とりあえず誰かに連絡しとこつ」

それから2時間ほどだと思っ。あたしはやっと気づかされた。持っていたはずのケータイはかばんを探しても制服を探しても、どこにもない。

何でないんだ。これじゃあ助けが呼べないじゃない。

ということであの岩場に留まっているよりも、自分の勘を信じて助けを求めることにした。

日本でいう春の午後3時くらい、だろうか。

森は太陽の陽気を

十分に蓄えているせいかわかばかとして暖かい。きらきらとした木漏れ日に癒されながら歩き続けた。

けれどもあたしは女子高生。馴れない森を歩き続けるスタミナは限られている。時間は待つてくれない。気がつけば太陽はゆっくり傾いてきていた。肌で感じる風も冷たい。もうかなり歩いたはずなのに人も、鳥も見当たらない。太陽は沈む手前。

どうして誰もいないのか。急に大きな不安と寂しさが押し寄せてきた。

「・・・っ」

あたしの体は長時間馴れない森を歩き続けた疲れからか、細い木の根に足を引っ掛けて少しひざをすりむいてしまった。立ち上がって、汚れを落す気にもなれなくて。その場にしゃがみこみうずくまった。さっきとは違った、夜の風があたしの体温を奪っていく。

”蒼”

誰かが自分を呼んだような気がしたのと同時に、家に着いたときのような、安心感が体を包み込んだ。あたしが顔を上げると、

「……。」

目の前に狼に似た真っ白の動物がじつとあたしを見つめていたの
で驚いた。いつの間に……

”蒼”

また、聴こえた。さっきと同じ声だ。

耳から入ってくる声でなく、頭に直接響く声。少し弟の空の声に
似ている気がした。

あたしは試しに、どうすれば帰れるか、と単刀直入に問いかけた。

”……彼について行けばいい”

間を置いて声の主から返事があった。

わかりました、と返事をし、次いで目の前の白い狼と目を合わせる。

狼はあたしの目を見るとぱちっと瞬きをしてから、くるりと背を
向けて歩き出した。

悪い感じはこれっぽちも感じない。あたしは迷わずその背中につ
いていった。

あたしを呼ぶ声（後書き）

ありがとうございました。

よければ感想、聞かせてください（^ ^）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0686z/>

世界って広いんだね

2011年12月2日19時00分発行